

鎌ヶ谷市 郷土資料館 だより 第46号

目次

- 第21回ミニ展示……………1・2
- 歴史講演会Ⅱ……………2
- 第17回收蔵資料展示……………3
- 郷土資料館この一品⑤……………3
- 郷土資料館の仕事・鎌ヶ谷の「平成」
探しています……………4



この地に生きる人々の暮らしや想い、時の移ろいを見守ってきた「初富稲荷神社」

◇◇ 第21回ミニ展示 ◇◇◇◇◇◇◇◇

地区の歴史と文化財⑦ -初 富- 〈後期〉

～初富の歴史と民俗を伝える文化財：初富開墾150周年記念～

市内7地区の歴史と現在まで伝わった文化財を紹介するこのシリーズは、市域の中央部に位置する初富地区で最終回となります。昨年7月から9月にかけて埋蔵文化財を展示し好評をいただいた〈前期〉に続き、今回の〈後期〉ミニ展示では、今からちょうど150年前に誕生した初富の近・現代史を記した歴史文化財と生活や信仰を伝える民俗文化財、そして昔の初富地区の写真を現物とパネルで展示します。開墾地初富の人々が残した貴重な文化財の数々をぜひご覧ください。

明治・大正・昭和の歴史語る 数々の文化財を展示

後期の展示では、初富の歴史と民俗を知ることができる文化財の数々を展示します。主な展

示内容は次のとおりです。

① 初富の近・現代史を語る歴史資料

「初富」の地名が初めて記された「開墾地移住民埋葬につき願書」(明治2年)をはじめ
〈2ページへ続く〉

〈1 ページからの続き〉

として、主に明治時代に作成された古文書類を中心に展示します。

② 伝承された民俗文化財

近年までくぬぎ山地区で行われていた「野馬^の観音講」など、明治から昭和にかけての時代に初富で盛んであったいろいろな講で使用された掛け軸や講の道具・文書を展示します。

③ 昔の初富フォトグラフ

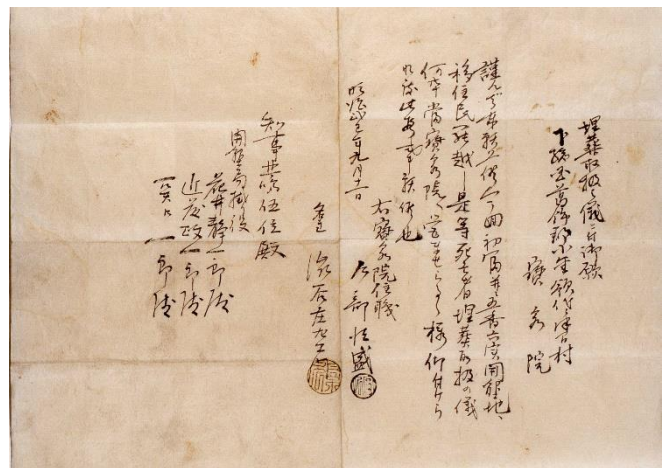
主として、昭和期に撮影された初富の景観や行事の写真をパネル展示します。

3月16日から展示スタート

今年で開^{かい}闢^{びやく}してから150年を迎える開墾地初富^{こがねなかのまき}。小金中野牧^{うるわ}から美しい畑地へ、そして住宅地へと変貌をとげる中、現在まで伝わった貴重な文化財をご覧になりながら、歴史へ想いを馳せていただけたら幸いです。

会 期 3月16日(土)～5月26日(日)。
ただし、毎週月曜日と3/21(木)、4/30(火)～5/5(日)は休館

開館時間 午前9時～午後5時



「初富」の地名が初めて記された明治2年の古文書
会 場 郷土資料館 2階展示室
入 館 料 無料

ギャラリートークも開催

展示期間中の3月23日(土)、4月10日(水)、4月21日(日)、5月7日(火)、5月17日(金)のいずれも午後1時30分～2時30分に、担当学芸員によるギャラリートーク(展示解説)を行います。申し込みは不要ですので、お気軽にご参加ください。

お問い合わせは、郷土資料館 ☎ 445-1030 (FAX: 443-4502) へどうぞ。

歴史講演会Ⅱ

初富の始まり -下総台地の東京窮民-

市内の明治時代の歴史の幕開けとして行われた初富開墾は、近代日本の各地で行われた開墾の中でも最も早いものの一つです。そし



開墾により誕生した「初富」

て、本年は開墾が開始されてからちょうど150周年にあたります。

この講演会では、開墾事業が開始された時の状況、その主役となった「東京窮民」とよばれた人たちの人生や生活、事業終了後の請願や裁判を始め授産地回復闘争などを、明治政府の政策とからめて語っていただきます。

日 時 3月17日(日)午後2時～4時
会 場 中央公民館集会室(きらり鎌ヶ谷市民会館内)

講 師 天下井恵さん(元鎌ヶ谷市史編さん事業団近・現代部会長)

定 員 70人(申込先着順)

参加費 無料

申し込み 郷土資料館 ☎ 445・1030へ

第17回収蔵資料展示

日清・日露戦争と鎌ケ谷

郷土資料館では、2月26日(火)から「第17回収蔵資料展示」を1階展示室で行います。

明治27年(1894)から起きた日清戦争は近代日本にとって、はじめての本格的な対外戦争でした。日清戦争では約18万人が戦争に駆り出され、日清戦争出征兵士墓誌1万人以上が亡くなっています。鎌ケ谷の日清戦争に関する記録はあまり残されていませんが、初富の共同墓地に今もひっそりと建つ墓誌によって、戦死者の名前が確認できます。

また日露戦争は、明治37年(1904)に満州・韓国をめぐる日本とロシアの間でおきた戦争です。この戦争に関連した史料は市内にも残っており、市内から出兵し戦死してしまった若者



の記録まで残されています。

今回の展示では明治期におきた二つの大戦、日清・日露戦争が鎌ケ谷にもたらした影響を見ていきます。

中沢地区でひと足早い春を探そう

—春の自然観察会を開催—

春は名の中沢八幡・春日神社境内や根郷川沿いを散策しながら鳥や植物を観察し、早春の自然とふれあってみませんか。

日 時 3月2日(土) 午前9時30分～正午。荒天の場合は3日(日)に順延

集合場所 中沢自治会館(なるべく徒歩・自転車か公共交通をご利用ください)

定 員 30人(申込先着順)

参加費 50円(保険代)

講 師 唐沢孝一さん(都市鳥研究会顧問)

服 装 歩きやすい服装・靴で

申し込み 郷土資料館 ☎ 445-1030

FAX: 443-4502

郷土資料館この一品⑤

たてあな 竪穴住居

郷土資料館に入ってまず目を引くのは、中央に展示している「竪穴住居」の復元模型でしょう。

鎌ケ谷市域では、縄文時代終末から弥生時代の遺跡は発見されていません。これは、環境の変化や稲作の伝播に伴って、市域が生活に適さない土地であったためと考えられています。

古墳時代になると、一本松遺跡や猿根No.1・No.2遺跡などの集落が形成されます。人びとは、甕・壺・高坏などの様々な形をした土師器と呼ばれる土器を作りました。また、甑の登場によって、米を「蒸す」調理スタイルが生まれます。

やがて古墳時代の後半には、竪穴住居内に

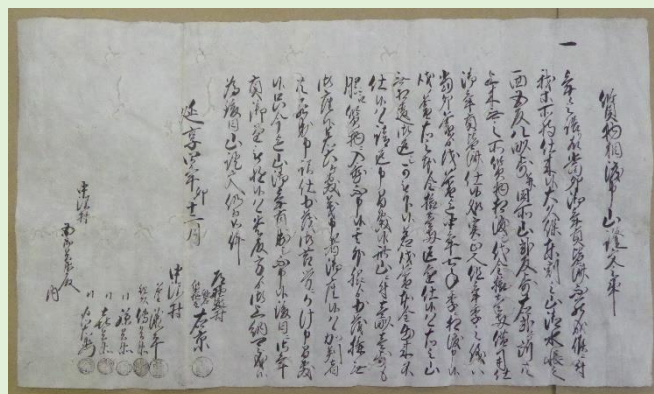
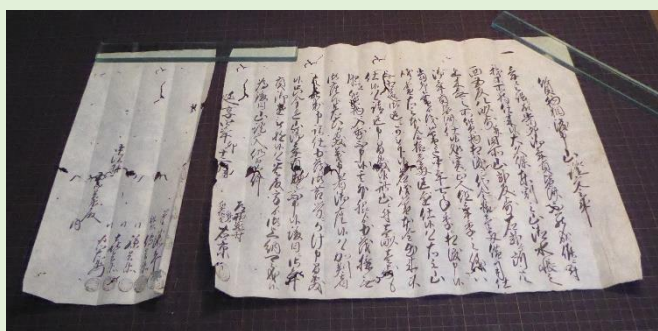


竪穴住居の復元模型

竈が誕生し、生活空間も劇的に変化します。さらに、土師器とは異なるロクロを使って作られた硬質な須恵器も用いられるようになります。

奈良時代になると市川市には下総国の国府が置かれ、律令国家として着実にその歩を進めていきます。市域でも、大堀込遺跡や根郷貝塚などで当時の竪穴住居跡が見つかっています。庶民にとっては、まだまだ竪穴住居が一般的な住まいであったことが分かります。

古文書の修補前(左)と修補後(右)



郷土資料館の仕事

歴史資料を後世に残す

— 博物館実習と古文書修補 —

資料館では毎年、学芸員資格の取得を目指す大学生を受け入れ、博物館・資料館の業務に必要な実務実習を行っています。昨年は6名の大学生が約1週間参加しました。

実習内容は博物館概論にはじまり、考古遺物や古文書の取り扱い方法、諸講座の準備・運営など多岐にわたります。そのなかの一つとして、昨年は「古文書修補」も体験してもらいました。

資料館が所蔵している古文書は、1点ずつ中性紙封筒に入れて保管してありますが、なかには保存状態があまりよくないものがあります。長い年月のなかで破れたり、紙の継目が剥がれたり、虫に喰われたりします。

修補作業では古文書をクリーニング(水洗い)したあと、古文書の状態に応じて、和紙で虫損の穴を埋めたり(虫損直し)、古文書の裏全面に和紙を貼って紙の補強をします(裏打ち)。水と、自然由来の糊のみを使い、古文書への影響は最小限にしています。

水でクリーニングをするだけでもある程度の汚れが落ち、紙のしわが伸びるので、保存にも展示にも適していると思います。

資料館の裏側ではいろいろな作業をしていますが、大事な歴史資料を後世に残すため、古文書の修補も少しずつ進めていきたい作業の一つです。

ご協力お願いします!

鎌ヶ谷の「平成」探しています

2019年4月いっばいで「平成」の世が終わり、私たちは新しい元号を迎えることとなります。この約30年間にいろいろな出来事がありました。バブル経済の崩壊、消費税導入、郵政民営化、ゆとり教育の導入、そして東日本大震災…。また、鎌ヶ谷では新鎌ヶ谷駅周辺の開発や、日本ハムファイターズタウン鎌ヶ谷の開設など、市も大きく変わってきました。

郷土資料館では、平成の終わりを記念して来年度「平成の鎌ヶ谷(仮称)」の展示を行います。そこで、平成の鎌ヶ谷を切り取った写真や文書、記念品などご家庭に眠っている資料がありましたら、ぜひ郷土資料館までご一報ください。ご協力お待ちしております。



新鎌ヶ谷駅周辺航空写真
(平成16年撮影)

鎌ヶ谷市郷土資料館だより 第46号 平成31年2月15日発行 編集・発行：鎌ヶ谷市郷土資料館

住所：〒273-0124 鎌ヶ谷市中央1-8-31 Tel：047-445-1030 Fax：047-443-4502

メール：kyodo@city.kamagaya.chiba.jp

ウェブサイト：http://www2.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo_2/index.html